



藪田 英俊社長

15年を振り返って
業績面では、「利益最
優先」を至上命題と位置
付けて採算性を重視した
ところ、第2四半期を終
えた時点では増収増益と
なり、比較的順調な1年

だったと言える。特に原
油安の影響により、製造
コストが抑制できたこと
も利益に結び付いた。通
期の予想では、品確法の
改正や設計変更などを背
景に前年と同等もしくは
上ぶれすると見ており、
当社としては人材の適材
適所やOJTによる技術
者の能力アップを図りな
がらも、人員体制を鑑み
ながら都心・地方を問わ
ず満遍なく収益を得た
い。

中期経営計画の策定
今年度を初年度とする
中期経営計画がスタート
したばかり。目標達成に
向け、「高収益体質の転
換」「労働環境の向上」

ている。特に高収益体質
の転換を図るなかで、合
材需要が昨今減少傾向に
あるため、合材部門の体
質改善に着手したところ
だ。具体的には設備投資

業推進部」を新たに設置
した。保有技術のフラッ
シユアップを実施し、維
持保全・補修や一般土木
工事での営業支援を進め
るなど、司令塔的な役割

員にとって働きやすい環
境を形成することは、若
年層を確保するという意
味で重要だ。新たな試み
として昨年、9支社の中
からモデル事業所を設定
し、業務改善や労働時間
の短縮、休日取得、ワー
ク・ライフ・バランスな
どを推進している。4月
からは全国の事業所でこ
うした取り組みを実施し
ていきたい。

“ゆとり”で職場環境向上

に加えて、五輪後を見据
えた「持続的発展を維持
するための素地の形成」

を計画的に行い、合材工
場を再構築するなど高効
率な製造ラインに見直し
ていく。

を担うことになる。
職場環境の向上
中期経営計画にも示さ
れている職場環境の向上

には、「ゆとりの創出」
がキーワードになる。社

「グループ戦略の推進」
と「前中期経営計画の基
本事項の継続」を推進し

新組織設置による効果
昨年10月、本社内に「事

がキーワードになる。社